

1. 案件名（国名）

国 名：ケニア共和国

案件名：和名 アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクト フェーズ 2

英名 Partnership for Health Systems Strengthening in Africa (PHSSA)
Phase II

2. 事業の背景と必要性

（１）当該国及びサブサハラアフリカ地域における保健セクターの現状・課題及び本事業の位置づけ

サブサハラアフリカ地域では、保健・医療従事者（ヘルスワーカー）が絶対的に不足しており、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（Universal Health Coverage: UHC）推進上大きな制約要因となっている。アフリカでは農村人口の 77% が保健サービスへのアクセスがない状況に置かれており¹、その主因は保健人材不足とされている。アフリカにおいて人口 1 万人に占める保健人材の割合は 12.4 人に過ぎず、世界平均の半数以下にとどまっている。そのため、保健・医療従事者の育成・強化は喫緊の課題であり、サブサハラアフリカにおける保健人材育成のための教育機関の質的なキャパシティの向上が求められている。また、公正性の観点から適切に人材を配置する管理能力の向上も含めた保健システム強化が必要とされている。

保健・医療従事者の育成・強化は基本的に各国保健省が担っているが、サブサハラアフリカ地域では人材開発・人材管理を含む保健システム強化（Health System Strengthening: HSS）に係る研修実施能力を有する機関は少なく、保健・医療従事者が容易に研修・訓練機会にアクセスできる状態には至っていない。

本事業の第一フェーズ（第三国研修「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクト（PHSSA）」（2011 年～2015 年）では、サブサハラアフリカ地域の各国保健省とともに、既存の研修機関の能力強化や研修機関間のネットワーキングを通じて、HSS のうちリーダーシップ/マネジメント/ガバナンス（LMG）に焦点を当てた人材育成に関する研修モジュール（HSS-LMG）を開発し、3 カ国語（英語、仏語、葡語）による指導者向けの研修を計 300 人以上が受講した。その結果、研修参加者が帰国後にカスケード式で保健・医療従事者に対して研修を実施するケースも見られた。しかし、HSS の推進に必要な能力を有する保健・医療人材引き続き不足しており、更なる人材育成が求められている。

（２）当該国及びサブサハラアフリカ地域における保健・医療セクターに対する我が

¹ Scheil-Adlung XE. Global Evidence on inequities in rural health protection. New data on rural deficits in health coverage for 174 countries. Geneva: ILO, 2015.

国及び JICA の協力量針等と本事業の位置づけ

我が国の対ケニア共和国国別援助方針では、重点分野として「保健・医療」を掲げている。さらに、国際保健外交戦略においてもアフリカにおける UHC に向けた取り組みとして保健システム強化への貢献を挙げている。本事業は、保健・医療従事者の育成・強化を通じてサブサハラアフリカ各国で保健システムの強化を図るものであり、我が国のケニアに対する援助方針や国際保健戦略に合致したものである。

2016 年 8 月の第 6 回アフリカ開発会議(TICAD VI)で採択されたナイロビ宣言において、3つの重点項目の一つとして「質の高い生活のための強靱な保健システム促進」を掲げ、強靱で包摂的かつ持続可能な保健システムが必要となるとともに、各国で連携・協調し UHC 推進に向けて取り組むことが確認された。本事業は保健システムの LMG の能力強化を通じ保健・医療人材の育成・強化を図ることでサブサハラアフリカ地域での UHC 推進に取り組むものであり、当該地域の開発ニーズ及び政策に合致したものである。

SDG ゴール 3 に掲げられている「健康な生活の確保、万人の福祉の促進」の達成に向け、本事業は保健人材の LMG の強化を図ることで、UHC の主要素である保健医療サービスの質向上やカバレッジ拡大に貢献する。

(3) 他の援助機関の対応

Africa Health Leadership and Management Network (AHLMN)は、アフリカの保健システムマネジメントの強化を目的に 2008 年に設立された研修機関のネットワークで、34 カ国の 106 機関が加盟しており(2018 年 4 月時点)、ケニアベースの Amref Health Africa が中心的役割を担っている。本プロジェクトは AHLMN を通じて実施することで、既存のメカニズムを活用し効率的かつ効果的な域内の保健システム強化を目指している。

USAID は、Leadership Management and Sustainability Program を通じて、2005 年から 2010 年までサブサハラアフリカ地域を対象にリーダーシップ及びマネジメント強化への支援を実施した。本事業では研修モジュールを同プログラムの教材を参考に作成するなど、同プログラムの後継と位置づけられている。

世界保健機構(WHO)は、保健システムの中でも各国政府の中期計画策定能力を強化するため Country Learning Program を実施する方針である。同プログラム対象国での技術支援は本プロジェクトで育成された人材を通じて実施される予定であり、本プロジェクトとの相乗効果が期待される。

3. 事業概要

(1) 事業目的

本事業は、アフリカ地域の既存ネットワークや研修機関とのパートナーシップの下、サブサハラアフリカ各国の保健システム強化に従事する人材に対して研修（主に Eラーニング）を行うことにより、サブサハラアフリカの保健システム強化に貢献する人材の育成を図り、もってサブサハラアフリカ地域における各国の HSS に係る研修実施能力の強化に寄与するものである。

（２）プロジェクトサイト／対象地域名

サブサハラアフリカ全ての国：計 41 カ国（AHLMN のネットワークを活用）

- * 英語圏はケニア、仏語圏はセネガル、葡語圏はモザンビークを拠点としてプロジェクト活動を推進する。

（３）本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者：サブサハラアフリカ地域で保健システム強化に従事する人材、計 17,000 名。

- 英語圏：ケニア 3,000 名、その他 18 カ国 6,000 名
- 仏語圏：17 カ国 6,000 名
- 葡語圏：5 カ国 2,000 名

最終受益者：サブサハラアフリカ各国で保健・医療従事者から同サービスを受ける人々

（４）総事業費（日本側）約 2.3 億円

（５）事業実施期間 2016 年 11 月～2021 年 3 月を予定（51 ヶ月）

（６）事業実施体制

- ケニア国保健省医療サービス長（Director Medical Service, Ministry of Health）：プロジェクト総括
- Amref Health Africa 研修局（Capacity Building Directorate）：プロジェクト実施運営管理

（７）投入（インプット）

１）日本側

- ① 第三国専門家派遣（フェーズ１で育成された周辺国人材の活用）
- ② 現地活動費：フェーズ１で開発した研修モジュールの Eラーニング向けコンテンツへの改定経費、オンラインプラットフォーム及び研修実施に係る経費

２）ケニア側

- ① ケニア保健省医療サービス長（Director Medical Service）
 - ・ カウンターパートの配置
- ② Amref Health Africa（委託先）研修局
 - ・ カウンターパートの配置
 - ・ 施設、機材、備品（研修モジュールの改定、研修の実施に必要な資機材）

（８）他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

ケニア「地方分権化におけるカウンティ保健システム・マネージメント強化プロジェクト」を通じて、保健マネージャーらの能力強化を図っており、本事業における研修コースを対象者に提供し、当該プロジェクトの活動に実践的に活用することで相乗効果が期待される。

2) 他援助機関等の援助活動

本事業は AHLMN のネットワークを活用しアフリカ各国における研修の実施を促進しているが、本事業を通じて AHLMN メンバー機関の研修能力の強化を図ることにも貢献している。また同ネットワークを通じた連携を促進し、相互で補完しながらアフリカ域内全体での人材育成能力強化が図られている。

(9) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類：C
- ② カテゴリ分類の根拠：本プロジェクトによる環境への影響は発生しない。
- ③ その他・モニタリング：特記事項なし

2) 横断的事項

特記事項なし

3) ジェンダー分類：

【ジェンダー案件】GI (S) ジェンダー活動統合案件

＜分類理由／活動内容＞ 本事業は、開発政策上の観点から、女性の保健人材育成へも貢献するよう取組む予定であるため。保健人材育成ターゲットグループのジェンダーバランスに配慮するように努める。

(10) その他特記事項

特になし

4. 事業の枠組み

(1) 上位目標：

サブサハラアフリカ地域における各国の HSS に係る研修実施能力が強化される

指標及び目標値：E-ラーニングによる保健システム強化のためのリーダーシップ/マネジメント/ガバナンス研修(eHSS-LMG)プログラムを確立し継続的に実施する国と機関の割合(目標値:国-41、機関-80)

(2) プロジェクト目標：

アフリカ地域の既存ネットワークや研修機関とのパートナーシップの下、アフリカの保健システム強化に貢献する人材が持続的に輩出される。

指標及び目標値：

- ① サブサハラアフリカでE-ラーニングによる保健システム強化のためのリーダーシップ/マネジメント/ガバナンス研修(eHSS-LMG)を提供した国と機関の数(目標値:国-41、機関-43)
- ② 上記研修を受講した保健人材の数(目標値:17,000)

(3) 成果

- 成果 1: フェーズ I で開発した保健分野のマネジャーとリーダー向けの HSS-LMG 研修カリキュラムと教材を見直し、内容も更新した上で、eHSS-LMG 研修として提供される。
- 成果 2: eHSS-LMG 研修実施に対する各国政府やメンバー機関の資源・資金配分を増やす。
- 成果 3: 研修機関同士で eHSS 関連の活発なネットワーキングや情報共有ができるオンラインプラットフォームが開発される。
- 成果 4: 研修受講者へのフォローアップと受講者からのフィードバックが受け取れるメカニズムが構築される。
- 成果 5: 保健システム強化へのダイナミックな需要に応えるための、eHSS-LMG 研修のカリキュラムとモジュールを定期的に見直す体制がつくられる。
- 成果 6: 研修の実施を通じて得られたベストプラクティスや教訓を抽出し、記録に残す体制がつくられる。

5. 前提条件・外部条件

(1) 前提条件

- ・ 各国の研修機関によって研修に必要な予算及び施設・講師等が確保される。

(2) 外部条件

【プロジェクト目標達成のための外部条件】

- ・ AHLMN の役割とメンバー国・機関に大きな変更が生じない。

【上位目標達成のための外部条件】

- ・ 引き続き及び国際レベルにおいて HSS が優先課題と位置付けられる。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

(1) 類似案件の評価結果

本事業の前フェーズ(フェーズ1)「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクト」では、HSS-LMG に関する研修モジュールを開発の上、ケニアにて周辺国人材向けに研修を実施した。研修モジュール自体は内容が充実した有益なものであったが、直接受益者が研修参加者(300 名強)に限定されることが課題として残った。サブサハラアフリカ地域では保健・医療人材が絶対的に不足していることに鑑み、当該研

修の更なる拡大・アウトリーチが必要との教訓が得られた。

(2) 本事業への教訓

直接受益者を拡大するため、上記研修モジュールを E-ラーニング用教材として改訂することにより、数多くの人達が研修を受講できるように改善を図った。また、積極的な参画と研修コースの活用を促すため、本プログラムを広く認知されるようアドボカシーを強化する計画である。

7. 評価結果

本事業は、ケニア国及びサブサハラアフリカ各国の開発政策、開発ニーズ、日本の援助政策と十分に合致しており、また計画の適切性が認められることから、実施の意義は高い。また、保健人材の LMG 能力強化を通じて UHC に資するものであり、SDGゴール3に貢献すると考えられることから、事業実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

4.(1)のとおり。

(2) 今後の評価スケジュール

事業開始 2 年以内 PDM 指標(目標値)の決定

事業終了前 6 か月 エンドライン調査の実施

事業終了 3 年後 事後評価

以 上